

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービスみらいの風		
○保護者評価実施期間	令和 8年 1月 9日		令和 8年 1月 30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	29世帯31名	(回答者数) 14世帯
○従業者評価実施期間	令和 8年 1月26日		令和 8年 2月 9日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数) 6名
○事業者向け自己評価表作成日	令和 8年 2月 10日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	活動環境の中に母体法人施設が設置されており、法人他部署との連携を密に図り、必要時に支援を受けられる環境にある。 また、放デイに通所する子どもたちが、法人近隣地域の住民を含めた理解がある大人と交流を図ることができる環境にある。	近隣地域の産直利用や住民交流を活動に取り入れ、ソーシャルスキルの実践機会を多く設けている。 法人職員の専門性を活かした活動展開により、活動プログラムの自由度を更に高め、利用児童・保護者の満足度向上を図るよう努めている。	更に実践的なソーシャルスキル獲得機会の確保、実践力向上に向け、近隣地域を活用した活動展開の拡大を継続して推進していく。 合わせて、法人職員の協力を得ながら活動内容の多様化を更に進めていく。
2	専門性を基盤とする多職種で職員が構成されており、多様な状態像(不登校状態を含む)の児童の支援にあたり、多角的な評価視点の取り入れやそれぞれの専門を生かした支援の展開ができています。	福祉・保育・リハビリ等の多職種が配置されており、母体法人(精神科医療機関)での実務経験を有する職員も配置されている。 職員の専門性を活かした多角的なアセスメントに基づき支援計画を立案し、多様な支援展開を図っている。	基盤となる専門性の恒常的な引き上げを図りつつ、児童発達支援分野の専門知見を深める研鑽機会を更に確保していく。
3	地域支援者との協働関係が円滑に構築できている。	支援展開にあたり、関係者と課題の明確化・共有化、支援展開の見直しなどを含めた透明化を進めて、協働関係構築を図っている。 支援関係者間の相互理解が進み、相談や新たな支援提案などの横断的連携も進められている。	多様な利用者像の支援にあたり、地域関係者との円滑な連携がさらに不可欠になっている。今後も支援実践や研修などの機会を通じて、地域関係者との双方向的な役割把握と分担を調整していく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を十分に持っていない。	同センター主催の研修について、情報を得る機会が少なかつた。	自立支援協議会児童通所支援部会等からの情報収集を積極的に行い、研修機会の確保と、必要時に助言を受ける関係構築に努めていく。
2	独自の保護者会開催が未調整。	独自の保護者会企画には至らなかったが、能動的な情報収集とお便り等での情報提供頻度をあげて実施していた。	収集した情報を提供する際、簡易な説明を添えるなど、情報を受け取りやすい形にして提供を継続する。 合わせて、ペアレントメンター・ペアレントトレーニングなど保護者がより情報を求める内容についても、積極的な情報収集と発信を進めていく。
3	訓練等の間接支援に関する情報提供が不十分。	実施している訓練は、毎月のお便りで周知に努めている。一方で簡易な情報提供であり、内容の詳細周知に至っていない。	契約時の詳細説明・定期的なお便りによる簡易の情報提供と合わせて、詳細の情報提供機会を定期的に設けていく。定期的な詳細情報提供にあたっては、情報把握がしやすい様式等を整備していく。